

第二回 「世界の中心で働く現役神戸学院生」

岡部 芳彦

先日、とある面接があり「ロンドン市」に出張しました。ロンドンは僕の住むブリストルから電車一本で1時間40分ぐらい、関西で言えば姫路ー京都間ぐらいでしょうか。少し説明させてもらえれば、「ロンドン」は首都の行政区画である「グレーター・ロンドン（大ロンドン市、日本でロンドンと言えればこちらを指すことが多いです）」とその中の「シティ・オブ・ロンドン（ロンドン市）」があります。後者は「シティ」とも呼ばれニューヨーク・東京と並んで世界の金融センターの一つであり、イングランド銀行やロンドン証券取引所をはじめ、世界中の銀行の支店が立ち並んでいます。歴史的な建物が多いロンドンでもこのシティに来れば、現代的な高層ビルがそびえ立ちます。またシティにはロード・メイヤーと呼ばれる市長がいて、その歴史は大ロンドン市長よりもはるかに古いのです。

そのシティの市庁舎ギルドホールでの面接の前に、ぜひとも寄りた場所があり、ピカデリーサーカスに行きました。ピカデリーサーカスは世界的にも有名なショッピングの中心地の一つで、日本の三越なども出店しています。クリスマスを前にしての混雑ぶりは相当なもので、人混みが苦手な僕は5分で疲れてしまうほどです。人混みをかき分けてたどり着いた先はUNIQLO、日本のユニクロです。このピカデリーサーカスのユニクロでは、僕のゼミ生長谷川亜美さんが働いています。彼女は3回生を終えた時点で休学し、イギリスのワーキングホリデービザを取得して、



「日々新しい事を学び、やりがいを持って働いています。」 by 長谷川亜美

2011年9月にユニクロ・リージェントストリート店のオープニングスタッフとして採用されました。その後契約が更新され、アルタレーション(裾上げ)、ショップフロアを経験したあと、一年後の2012年の8月に昇格試験に合格しました。テストは筆記試験をパスした後に、エリアマネージャー、人事部の方々と面接などもある厳しいもので、現在はシルバースタッフとして、閉店後のレジ閉め、その後のオフィスワーク、レジで商品の返品、交換の対応、レジのリーダーや閉店作業中のフロアリーダーなどもするそうです。朝礼ではイギリス人スタッフを前に英語で30分も話をすることもあるそうです。

お店に到着すると忙しい合間をぬって彼女が接客してくれました。ブリストルにはユニクロがないため妻から頼まれた物もあり、それを探してもらう間に彼女の働きぶりを見ていました。イギリス人スタッフに英語でテキパキと指示を出す様子は、もう僕の知っていた長谷川さんではありません。僕のゼミでも頑張り屋さんでしたが、今「世界の中心」でバリバリと働くその姿は、Cool(カッコいい)の一言です。

僕のゼミから毎年一人ずつ長期で渡英しています。卒業論文を書くためだけにスウェーデンに行き、ストックホルム大学の先生にインタビューしたり講義に出たゼミ生もいまし

た。費用もかかったり、それなりにリスクもあることなので、誰にでも勧めるわけではありませんが、海外に出て帰国したゼミ生を見ていると、必ず「何か」を得て帰ってきています。それは決して語学力だけではなく、視野が広がり、その結果モノの見方が変わったり、自分が何者であるのかを再認識することも多いように思えます。

アメリカの元国防次官補で、知日派のジョセフ・ナイ・ハーバード大学教授はイギリスの新聞フィナンシャル・タイムズで最近の日本の内向きなナショナリズム志向を心配していますが、世界へ飛び出していく神戸学院生を見ているかぎり、まだまだ日本人の底力は捨てたものでもないと思います。これからも学生のみなさんが日本だけではなく世界で通用する人材になるお手伝いできればと、長谷川さんとの再会を通じて、強く感じました。